

回復期 リハビリテーション医療

リハビリテーションの役割は、患者の身体的・精神的な機能回復だけではなくありません。段階に応じてリハビリテーションの内容は変わりますが、今回は回復期のリハビリテーションについて、その過程や役割を解説します。



宮村 紘平
河北リハビリテーション病院 院長
みやむら・こうへい
日本リハビリテーション医学会専門医・指導責任者／義肢装具等適判定医／身体障害者福祉法第15条指定医（肢体、音声・言語、そしゃく）／日本リハビリテーション医学会代議員／日本ニューロリハビリテーション学会評議員

回復期リハビリテーションとは

リハビリテーション医療は、脳卒中などの脳血管障害、骨折などの運動器疾患、脊髄損傷、神経・筋疾患、小児疾患、リウマチ性疾患、循環器・呼吸器・内分泌代謝疾患を含む内部障害、がん、摂食嚥下障害、*ロコモティブシンドロームやフレイルなど、

ほぼ全診療科に関連する疾患や障害、病態を扱う領域です。

リハビリテーション医療は、患者に介入する時期に応じて、主な疾患の治療を主目的とした「急性期」、リハビリテーションを目的とした「回復期」、社会生活に主眼をおいた「生活期」に分けられます。そのうち、回復期リハビリテーション医療は、

整され、機能回復や自立生活への道筋が示されます。

運動療法や作業療法では、主に身体的訓練を行うことで筋力、柔軟性、運動制御、持久力などの改善を促し、日常生活動作や運動能力の向上を図ります。

脳損傷や神経疾患の患者には、認知リハビリテーションが含まれる場合があります。ここで言う認知機能訓練には、記憶の補助、注意力や問題解決能力の向上などが含まれます。言語療法では、患者の言語能力やコミュニケーションスキルの改善を

図ります。

障害や機能制限がある場合、患者は別の方法で代償してその機能を補います。そのため、利き手の変更や自動具操作などの訓練を行い、患者が可能な限り自立した生活を送るために残存機能の最大化を図ります。

環境への適応と支援

リハビリテーション計画を作成するうえで、患者の活動や参加に影響を与える環境要因は重要な要素となります。環境要因には介護者の有無、経済的状況、住宅環境、患者の価値観などが含まれます。

そうした患者の社会的な環境や身体環境を評価し、それらへの適応と必要な支援を検討したうえで、住宅改修、補助具の提供、家族教育、福祉サービスの提供などの対策がなされます。

リハビリ科の医師はチーム全体の調整役を担い、リハビリ計画が確実に実行されるよう、課題設定、計画の修正を適宜行います。

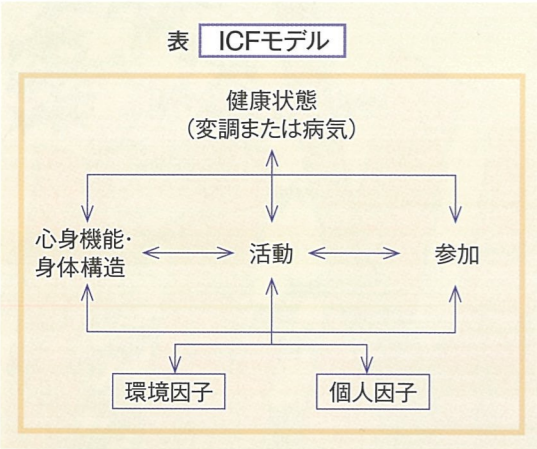
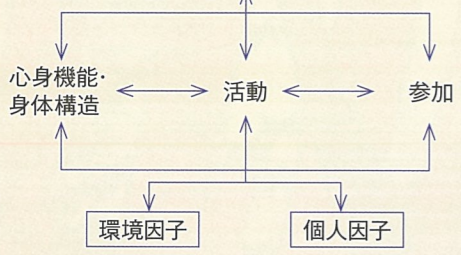


表 ICFモデル

健康状態
(変調または病気)



急性期治療後に疾病や外傷によって身体的・精神的な機能が制限された患者の機能回復と、患者が再び自立した生活を送るための支援を行う領域です。

回復期リハビリテーションでは、ヒトの健康を包括的に評価するための枠組みとして、世界的な分類基準である「国際生活機能分類 (ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health)」を用います(表)。ICFは、ヒトの健康状態を単に疾患や障害があるかないかで評価するのではなく、機能と活動の観点から総合的に捉えていることが特徴です。身体的・精神的・社会的な側面から、個人の機能や障害を評価するのです。

個人が日常生活でどのような機能を持ち、どのような活動を行い、どのように社会に参加しているかを評価したうえで、回復期リハビリテーション治療の計画を立てます。

回復期リハビリテーション医療は、疾病や外傷等によって低下した身体的・精神的な機能を回復させて障害を克服するだけでなく、ヒトの「活動」に着目して適切な支援をすることで生活の質(QOL: Quality of Life)を高める過程と言えます。

回復期リハビリテーション医療は、ICFの視点を活用して、患者の機能回復と社会参加の再開を支援しています。

次に、各種評価結果に基づき個別のリハビリテーション計画を作成し、理学療法、作業療法、言語療法を処方します。リハビリテーション計画は患者のニーズや目標に合わせて目標を設定します。

まず、医師が患者の身体的な能力、認知機能、運動機能、言語・コミュニケーションスキル、日常生活動作などの評価を行います。これにより患者の現在の機能レベルや制約を把握し、個々のリハビリテーション目標を設定します。



河北リハビリテーション病院
住所：東京都杉並区堀ノ内 1-9-27
診療科：リハビリテーション科、内科、精神科
療養病床：135床
施設認定：協力型臨床研修病院、日本医療機能評価機構、病院機能評価(高度・専門機能)リハビリテーション(回復期)



けんこうメモ!

かがやく笑顔を!

表情筋を鍛えましょう

マスクを長時間着用していると、顔の筋肉の運動が極端に減っていると感じませんか?

表情筋を鍛える簡単な体操を紹介しましょう。

口の体操

口輪筋周囲に効果があり、口元が引き締まり、口角が上がります。



口を大きく開けます。

口を閉じて歯をしっかりと噛み合わせます。

頬の体操

表情筋周囲に効果があり、すっきりとフェイスラインを引き締めます。



頬を大きくふくらませます。

頬をすぼめます。

これらの動きの繰り返しを5回行います。

他にも表情筋に効果的な体操を紹介しています。

動画もオススメ!



監修：河北リハビリテーション病院セラピー部